第4回府中市市民協働推進会議 会議録

- 日時 平成28年8月17日(水) 午前10時～午前11時半
- 会場 市役所西庁舎3階第3委員会室
- 出席者 (委員)
藤江会長、長谷部副会長、石坂委員、雄勝委員、奥村委員、志水委員、関口委員、松木委員、吉井委員
(事務局)
岩田市民活動支援課長兼市民協働推進担当主幹、松本市民活動支援課長補佐、金崎市民協働推進担当副主幹、新妻市民協働推進担当主査、佐藤事務職員
- 欠席者 神野委員、長島委員
- 傍聴者 1名
- 議事
1 開会
2 議題
(1) 平成27年度協働事業等評価結果答申(案)について
(2) 平成29年度提案型協働事業答申(案)について
- 資料 市民協働の推進に係る取組の進捗状況等についての評価・検証及び協働事業提案制度に基づく協働事業の選定について(答申)(案)

1 開会

(会長) 定刻になりましたので、第4回府中市市民協働推進会議を開会いたします。事務局から本日の委員の出席状況などについて、報告をお願いします。

(事務局) 本日はご多忙のところ、本会議にご出席いただき、ありがとうございます。事務局から何点かご報告を申し上げます。

まず、本日の出席状況でございますが、神野委員、長島委員から欠席とのご連絡をいただいておりますので、定数11名中9人の委員の皆様に出席をいただいております。

したがいまして、過半数に達しておりますので、本会議は有効に成立していることを併せてご報告します。

続きまして、本日の傍聴ですが現在までに1名の方の応募があり、1名の方がいらっしゃっています。傍聴の許可につきまして、本会議のご判断をいただきたいと存じます。

(会長) 委員の皆さんにお諮りします。傍聴を許可してよろしいでしょうか。

(※「異議なし」の声あり。)

(会長) それでは、異議がないということですので、傍聴を許可します。

(※傍聴者入場)

(※事務局より資料の確認)

(事務局) 最後に、本日の流れについて説明します。

本日の議題については、2点ございまして、1点目が平成27年度協働事業等評価結果の答申案についてです。前回の会議においていただいたご意見に基づき、答申案を作成いたしましたので、この答申案をご確認いただくとともに、もう少し議論が必要と思われる事項などについて、ご意見をいただき、更なるブラッシュアップを図りたいと考えております。

2点目が平成29年度の提案型協働事業の答申案についてで、8月3日に開催された提案型協働事業選考部会における選考結果についてご報告をいただくものでございます。事務局からは以上でございます。よろしく願いいたします。

(会長) それでは、議事を進めます。前回7月25日に実施した第3回目の会議の議事録につきましては、事前にご確認いただいておりますが、修正等でお気づきになることはございますか。よろしいでしょうか。

それでは、第3回目の議事録として確定いたします。事務局は、前回の議事録及び資料を、公開するよう手続きをお願いします。

2 議題

(i) 平成27年度協働事業等評価結果答申（案）について

(会長) それでは、議題に入ります。議題の(1)「平成27年度府中市協働事業評価について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局) それでは、資料をご覧ください。

今年度から、市長への答申が、提案型協働事業の選考結果だけでなく、協働事業の評価結果も答申することとなりましたことから、資料のような形での答申を考えております。

まず、答申案の構成について、ご説明いたします。

構成といたしましては、大きく「はじめに」、「平成27年度府中市協働事業評価について」、「平成29年度提案型協働事業の選考結果について」、「参考資料」としております。

「はじめに」では、昨年度の答申を踏まえた評価の実施等について記載しております。

「平成27年度府中市協働事業評価について」では、前回の会議でいただいたご意見を踏まえて、「今年度の評価に当たって（評価の視点）」、「個別評価を通して共通して感じられたこと（総論）」、「個別事業について（各論）」という構成で作成しております。

「平成29年度提案型協働事業選考結果について」では、提案型協働事業選考部会における答申案を掲載してございます。

最後に、「参考資料」として、委員名簿、検討経過、答申案作成に係る各委員からの意見、府中市協働事業等評価制度実施基準、評価シートの様子を添付しております。

続きまして、「平成27年度府中市協働事業評価」についてご説明いたします。作成に当たっては、前回の会議でいただいたご意見を、「今年度の評価に当たって（評価の視点）」、「個別評価を通して共通して感じられたこと（総論）」、「個別事業について（各論）」という分類で記載をしております。

恐れ入りますが、参考1「答申案作成に係る各委員からの意見」をご覧ください。資料17ページに掲載しているものと同じものですが、答申案の基礎となりました、前回の会議でいただいたご意見をどのように反映したかがわかるように、色付けして整理しております。

なお、本日の会議でいただいたご意見もこちらのシートにも反映いたします。また、資料の6ページから11ページまでと、参考3は同じものですが、この「第三者評価シート」につきましても、前回の会議における皆様からのご意見を踏まえ、よりわかりやすく修

正をしております。

本日のゴールといたしましては、この答申案をご確認いただき、修正した方が良い点や、もう少し議論が必要と思われる事項などについて、ご意見をいただき、更なるブラッシュアップを図りたいと考えております。

参考2につきましては、前回皆様からご提出いただいたシートをまとめたものでございますので、適宜ご参照ください。

事務局からは以上でございます。

(会長) 委員の皆さん、ご質問やご意見等がありますでしょうか。

(委員) 市への答申のため、このような表現になっているとは思ったのですが、資料5ページの「行政単独では解決が難しい課題こそ、協働が必要であり、市民と協働することで、無理や負担が軽減され効果的に事業が継続されていくと思われます。」という表現が、市のみの視点となっていて気になりました。行政単独というよりも、「行政又は市民単独では解決が難しい課題」という表現にするのはどうでしょうか。

参考1の3ページの中にも、「市民も行政も大変で、協働でないとは解決できない領域もあります。無理のない事業が継続していくことから、そのような事業があれば、負担を減らしていくという相乗効果があるのではないのでしょうか。」とあることから、市民と市の両方の立場で記載してはどうでしょうか。

(会長) 行政と市民のどちらを先に記載するかということもありますが、単独ではなかなか解決が難しい問題に、協働のきっかけや必要性があり、互いに協働することで事業が継続されていくことから、両者の視点を入れるよう修正していただきたいと思えます。

(委員) 資料4ページの「イ 様々な主体との協働」について、すでに様々な主体と協働で事業を実施しているものもありますが、新たな構成員を加えて実施をすれば、解決する問題もあると思えます。「様々な主体間のコミュニケーションを促進」という文章は、どうしても今現在の主体同士でのコミュニケーションを促進するようになってしまうことから、新しい主体も加えるという視点を入れていただきたいと思えます。その点に気付いていない団体も多いと思えます。

(会長) 中間支援組織に限定せず、既存の団体以外も事業に加わることがさらなる契機につながるということで、2段落目の文章の後に、「それとともに、新たな構成員を加えることで、さらなる発展が期待できる。」等の文章を加えるということよろしいでしょうか。

発信していくという意味では、既存の団体や行政だけではなく、多様な主体が事業に関わることで理解が深まり、良い形になっていくも

のと思います。

その他、委員の方々いかがでしょうか。評価については、事業内容や協働の形態が異なる中で、絶対評価と相対評価という難しさもありましたが、次年度に向けてこうした方が良いというような、追加すべき事項はありますか。

(委員) 資料4ページの(2)「評価制度について」に記載の内容について、確かに前回会議で意見が出ていましたが、この表現で問題ないでしょうか。ストレートに伝えるべきか、もう少し包んで表現した方が良いのか、難しいと思います。

(会長) 学校では、教える内容が指導要領に定められており、共通の基準に基づいて到達度を判断していることから、絶対評価となります。

しかし、今回の評価作業では、事業の歴史や性格が異なる中で、5段階で評価をしなければならなかったため、グルーピングをしながらの相対評価となってしまったという難しさがありました。

相対評価という言葉をもう少し噛み砕いて記載する必要があるかもしれないませんが、評価点ごとの分布率に押し込む、ということではなく、事業の性格や協働の形態等を細かく分けながら到達度を判断し、絶対評価をすることができれば良いと思います。1つの基準で無理をして評価をしなくても良いような、5段階の表現ができると良いと思います。

(委員) 資料4ページの(2)「評価制度について」の文章が、「認識しました。」で終わってしまっていることから、上手く次につながっていくような文章にできると良いのではないのでしょうか。

(会長) 趣旨としてもそのようにしていきたいと思いますが、文章の表現については、最終的には会長、副会長預かりにさせていただければと思います。その他、いかがでしょうか。

(副会長) 資料4ページの(2)「評価制度について」で、ヒアリングにおいて、評価側が聞きたい内容と事業実施者が発表する内容が異なったため、時間が足りなくなっていました。

そのため、参考1の1ページに記載の「ヒアリングに当たっては、ミッションを共有できているか、成果・課題を共有できているか、協働が必要な事業かという3点に絞って実施した。」という意見が非常に重要であると感じました。評価側が何を聞きたいのかをあらかじめ具体的に示すことで、評価側が聞きたいことを聞くことができ、時間もより有効的に使うことができると思います。そのような文章を追記していただければと思います。

(会長) 評価側が求めている情報が何なのかを、伝えきれていなかった部分があると思います。事前にチェック項目が分かっていたらヒアリング

を行いやすいですし、事業実施前にミッションを共有しておくことも重要であると思います。評価の項目の中にも、具体的に記載できればと思います。

(委員) 副会長の意見と同様に、事前にチェック項目を伝えると、報告する側もやりやすいと思いますし、評価する側もやりやすいのではないかと思います。

(委員) 評価については、自己評価、相互評価、ヒアリング、第三者評価という流れは非常に良いと思います。最終的には、予算という考え方が重要になってくるとと思いますので、もう少し議論がなされても良かったのではないかと思います。

(会長) ヒアリングは2つのグループに分かれて行いましたが、1グループでは予算についても質疑があったことから、予算の適当性も重要であると思われます。チェック項目として事前に伝えておくという必要性もあるかもしれません。

(委員) 資料5ページの5段落目「次年度については、」からの文章が非常に重要であると思います。新たな項目として、(4)を設け、記載すると良いのではないのでしょうか。

(会長) 読みやすさの観点からも、構成を組み直す必要があるかもしれません。会長、副会長預かりにさせていただければと思います。

(委員) 委員の意見を答申に上手くまとめていただいたと思います。またヒアリングを実施したいと思いました。

(委員) 答申に記載する内容ではないかもしれませんが、事業実施の時点から評価項目を意識して実施していただくためのツールが必要ではないかと感じました。

(会長) 先に伝えておいてほしかったということがないように、事業実施者にも意識していただくため、対応を考えていきたいと思います。答申への記載の有無については、会長・副会長預かりにさせていただければと思います。

それでは、議論がつきませんが、時間もございますので、事務局は議論を踏まえ、修正等をよろしくお願いします。

内容の確定及び答申までのスケジュールについて確認しておきたいので、事務局は説明をお願いします。

(事務局) 内容の確定と答申までのスケジュールについてご説明いたします。

今回いただいたご意見を踏まえ、参考2に今回皆様からいただいたご意見を追加するとともに、答申(案)の修正を行います。このため、委員の皆様には、会議録の確認と併せて、答申(案)のご確認をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

なお、会議録及び資料の確認期間といたしまして、8月22日（月）頃から、9月2日（金）頃を予定しております。皆様にご確認いただいた結果を踏まえ、事務局において内容の調整を行い、正副会長のご了承をいただき、市長に答申をいただきたいと思いますと考えております。

また、答申書の提出でございますが、9月中に正副会長に代表して行っていただきたいと思いますと考えております。

つきましては、内容の確定と答申までのスケジュールについて、本会議のご判断をいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

（会長） 事務局から内容の確定方法とスケジュールについて、説明と提案がありました。今回の意見を反映して、資料の修正を行ったうえで、委員の皆さんに確認いただき、その後正副会長預かりとすることで、内容を確定し、市長に答申するという進めたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。それでは、事務局は資料の修正等をお願いします。

② 平成29年度提案型協働事業答申（案）について

（会長） 続きまして、議題（2）「平成29年度提案型協働事業答申（案）」について、事務局からお願いします。

（事務局） それでは、ご説明いたします。資料の12ページをご覧ください。

冒頭でご説明したとおり、今年度から、市長への答申が、提案型協働事業の選考結果だけでなく、協働事業の評価結果も答申することとなりましたことから、1つの報告書の形で答申案を作成いたしました。

提案型協働事業の答申案の構成については、「協働事業提案制度について」、「協働事業提案制度のながれ」、「平成29年度提案型協働事業の傾向について」、「平成29年度提案型協働事業選定結果」と分類しております。

続きまして、平成29年度の事業の選考の概要についてご説明します。

先日8月3日（水）に公開プレゼンテーションを実施し、その後意見交換会を経て、審査会を開催いたしました。平成29年度に提案があった事業は、市民提案型協働事業が4事業、行政提案型協働事業が3事業の計7事業で、公開プレゼンテーションは、事業説明8分、質疑応答10分、入替時間2分の、1事業辺り20分で実施しました。

事業概要については、前回の会議においてご説明したとおりでございますので、割愛いたしますが、提案型協働事業及び評価結果につきましては、9月30日までに答申いただくこととなっておりますので、部会での議決を案といたしまして、本会議にお諮りするものでございます。以上でございます。

(会長) ありがとうございます。長谷部部会長、採択に当たっての付帯条件や不採択理由、選考のプロセスや感想等をお願いします。

(部会長) それでは、答申案の13ページをご覧ください。

部会での選考結果については、記載のとおり、市民提案型協働事業4事業のうち2事業を、行政提案型協働事業3事業のうち2事業の計4事業を採択といたしました。

まず、市民提案型協働事業よりご説明いたします。

1件目の事業「TAMA 介護福祉フェア」の審査結果は、「不採択」でございました。不採択となった理由でございますが、事業内容としては良いが、事業目的の共有が不十分であり、協働の必要性が低いことから、平成29年度の協働事業としての実施は見送ることといたしました。

主な意見としては、卸売センターでの開催ということで、空店舗を活用して介護用品の見本市を行い、卸売センターの活性化を図るという着眼点はユニークで評価できたのですが、高齢者支援課と一緒に介護予防の事業を行うという観点が不足しているという意見がありました。また、団体のみでも十分に成果を挙げていることから、民間活力や市の後援等を活用することで、さらに発展する可能性があり、なぜ協働で実施する必要があるのか、提案団体及び市担当課が協働で実施することで、どのような相乗効果があるのかを視野に入れて、改めてチャレンジしていただきたいとしました。

2件目の事業「マイ・ベスト・チャレンジ! 2017」の審査結果は、「採択」でございました。

主な意見としては、通常のスポーツとは異なり、体育施設に限らず、会議室でも実施できる点や、誰でも気軽に参加できる内容である点が高く評価できました。なお、スポーツを始めるきっかけとして提案されていましたが、手のひら健康バレーがそのきっかけになるのかという意見もあり、対象者を明確にする等、事業目的を絞りながら実施することで、広く市民の関心を高めることが期待できるとしました。

3件目の事業「シンポジウム『もっと公園に行こう!』」の審査結果は、「採択」でございました。

主な意見としては、提案団体はもちろん積極的な姿勢なのですが、市担当課にも積極的な姿勢が見えたことから、市の協力のもと、十分なコミュニケーションをとることで、実現性の高い効果的な事業となることが期待できるという意見がありました。

なお、団体が非常に熱心であるからこそ、負担が大きい印象があったことから、市担当課とすり合わせを行いながら実施すると良いとい

う意見もありました。また、事業の実施に当たっては、公園の特性として、緑が多く癒しの場である一方、落ち葉や虫、騒音などもあり、そういった負担を分かち合うことの重要性を、シンポジウムで訴えながら、地域住民の声を整理していく必要があるという意見や、担当課はワークショップの経験があることから、当該事業を通じて、今後のつながりや、継続性を持たせることができるよう、実施いただきたいとの意見がありました。

4件目の事業「Sing! Dance! and little courage!」の審査結果は、「不採択」でございました。

不採択となった理由でございますが、提案団体はヤングアメリカンズを呼ぶための団体であることから、協働の必要性や事業の継続性が不十分であり、平成29年度の協働事業としての実施は見送ることとしました。

主な意見として、先駆的な事業であるが、他団体に事業を依頼するだけではなく、提案団体及び市担当課が協働で実施することで、どのように相互の特性やノウハウが生かされるのか、協働による相乗効果を視野に入れて実施する必要があるとのことでした。他団体に事業を投げ、イベントを実施することを目的とするのではなく、今後どのようにしていきたいかという将来の展望を意識しながら事業内容を工夫し、改めてチャレンジいただきたいとしました。

続きまして、行政提案型協働事業のご説明をいたします。

1件目の事業「東京オリンピック・パラリンピック競技大会等関連事業」の審査結果は、「不採択」でございました。

「不採択」となった理由でございますが、事業の具体性や実現可能性、協働の意義が不十分であることから、平成29年度の協働事業としての実施は見送ることとしました。

主な意見としては、東京オリンピック開催に向けた外国人観光客への府中市の魅力発信の必要性は高く、評価できる事業である一方、事業の全体像がつかめなかった点や、企業との協働は悪いことではないのですが、企業の収益事業と言う印象を受けてしまった点がありました。協働で事業を実施することで、どのように団体の特性やノウハウが生かされるのか、協働による相乗効果を視野に入れて、改めてチャレンジいただきたいとしました。

2件目の事業「協働に関するミニシンポジウムの開催」の審査結果は、「採択」でございまして、採択の付帯条件としては、事業費を精査すること。特に保育料を見直し、事業実施回数を増やすことで、より広い地域で市民協働の啓発ができるよう工夫をすることと、当該事

業で生まれた成果を報告書等にまとめ、活用することで、今後の広がりが生まれるよう工夫をすること」といたしました。

主な意見といたしましては、地縁型活動団体等の参加を促し、多世代の参加者が交流できるよう実施いただきたいといたしました。

3件目の事業「市民協働普及啓発動画の制作」の審査結果は、「採択」でございました。

主な意見として、先駆性及び発想力の高い事業であり、市民協働を進めるうえで活躍が期待される、20代～40代の世代を対象とすると、効果的であると考えられました。市民目線で製作をすることで、市民が関わっている良さが出ると、工夫していただくこと、また、メイキング動画の作成やテレビ広報等での放映等、動画の見せ方を工夫していただきたいとしました。

最後に、今年度の感想といたしましては、昨年度と比較すると、事業としては具体性や実現性が高いものが多かったのですが、協働事業としての視点が不足しているものもあるという印象を受けました。今後は、さらに協働の視点が浸透していくと良いのではないかと感じました。私からは以上ですが、補足や感想、ご意見等をお願いします。

(委員) 選考に当たっては、部会の中でも意見が割れました。市民協働推進委員会の委員の方から意見をいただきましたが、比較的厳しい意見が多く、参考にしながら協議しました。部会のみでは採択寄りの意見でしたが、市職員の方の意見を聞くことで気付きもあり、このような結果となりました。

(会長) ありがとうございます。委員の皆さんからご質問等がありますか。

(委員) プレゼンの前に、三者で事前打合せを実施しているとのことですが、不採択になった事業については、協働の必要性や役割分担等について、打合せの時点で軌道修正をすることはできなかったのでしょうか。

(事務局) 市民提案型協働事業では、総合計画をもとに、担当課を決定しておりますが、打合せを実施した結果、市の方向性と合わない事業や、自主事業として実施した方が良いと提案団体が判断した事業については取り下げとなっています。その他、不採択となった事業については、三者打合せ自体は上手くいったものの、打合せの結果があまり反映されなかったことや、事業内容を詰めきれなかったこと等を理由に、不採択となりました。

(会長) その他、ご質問等はよろしいでしょうか。それでは、議題(2)「平成29年度提案型協働事業の選考結果」につきましては、了承とし、答申案のとおりとさせていただきます。

3 その他

(会長) その他、事務局から連絡事項はありますでしょうか。

(事務局) 事務局から1点、次回の会議の日程についてご連絡いたします。

 次回の開催は2月頃と大分先になってしまいますが、答申書の送付と合わせて、後日日程調整をさせていただきます。

 なお、議題といたしましては、評価対象事業の更新や、次年度の取組についてを予定しております。以上でございます。

(会長) それでは、次回の会議は2月頃ということで、事務局は日程調整をよろしくお願いします。他になければ、以上をもちまして、閉会いたします。お疲れさまでした。

以 上